視察（研修）報告書

平成 28 年 7 月 4 日

府中市議会議長 様

会派名又は 公明党

議 員 名 大本千香子

加島広宣

日 時	平成28年7月4日 10:00～12:00
視察（研修）先	広島県庄原市 庄原市役所議会委員会室
視察（研修）項目	超高速情報通信網の整備について
参 加 者	大本千香子、加島広宣(2名)
視察（研修） 内容	<p>庄原市が現在整備途中の全市的な超高速情報通信網について、計画の経緯、課題、今後の取り組みを視察</p> <ul style="list-style-type: none">・ 合併時の基金6.9億円、起債30億、国費を活用しての事業。41億総事業費・ 民間(西日本NTT)事業者が主体として事業展開、市は補助金を出す形・ 今後の施設整備費、更新費用が不要。現行の防災無線等のLAN対応設備を統合することで約6億円の削減可能・ ランニングコストは年間1億強(告知端末の更新費用等を含む)・ 平成30年をめどに整備・ 告知端末で地域ごとの発信も可。安否確認の手段にもなりうる。・ 今後のサービス活用については検討中・ 10年前、市街地・企業向け情報網整備の案が90億円規模でだが、議会で全市対象とすべしと否決。1年かけて検討。全市対象の事業化に変更
所 感	<ul style="list-style-type: none">・ 庄原市はそれまで高速通信の整備がされておらず、全市への一斉展開がやりやすかった背景がある。・ 議会で全市展開の検討をきちんとされている。・ 技術は日進月歩なので、どこかで政策的な判断が必要。・ 府中市では2割弱の未整備地域を、コストを少なく整備する方法を考えなければならない。庄原の方式が当てはまるわけではないが、計画の検討についての取り組みに、政策判断の責任を感じる。・ 府中市では、今後詳細な未整備地域の把握と、住民の意向調査を丁寧に行い、どういう方法がベターなのか判断をしなければならない。一元化という表現は府中市では難しい。更に高速情報網を活用した市のサービス提供の在り方を議論しなければならないのではないか。